

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

No.119		船木地区		生物地理区分		コナラ林(西日本)	
				地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	京都府		地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	京丹後市			4.低地	5.その他	
	集落名称等	船木		環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
					4.畑	5.小川・水路	6.ため池
		7.池沼・湿地	8.社寺林		9.人工林		
		10.その他					

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状



写真の説明：京丹後市エコエネルギーセンター



写真の説明：液肥利用栽培モデル実証ほ場

No.119		船木地区		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	京都府			2.団体・企業・学校等
	市町村	京丹後市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	船木			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	アマタ株式会社	
	その他の主体の名称	農林家、京丹後市	
目的 :主 :その他	2.バイオマスなど新たな資源としての利用		
	対象となる資源	食品残渣	
	利活用方法等	<p>・国の機関、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、本地域においてマイクログリッドの実証実験(京都エコエネルギープロジェクト(KEEP))を行うこととなり、アマタ(株)が2003年(平成15年)にNEDOからKEEPの業務を受託、事業所を「京丹後循環資源製造所」としてマイクログリッドの構成要素の一つであるバイオガス発電施設の計画・運用・管理を行うこととなった。</p> <p>【資源循環の取組の拡大:液肥を活用した農業】</p> <p>・アマタは、メタン発酵の副生成物である液肥を有効利用した新たな取組として、2006年(平成18年)に地元農家と共同で有機野菜の栽培を実証実験し、また、2007年に無農薬・減化学肥料の稲作を開始した。</p>	
連携・協働による 取組内容・役割分担等		<p>・民間企業がバイオガス発電施設の管理運営業務を受託。</p> <p>・2005年(平成17年)8月にバイオマス発電施設の稼働開始。2009年(平成21年)10月に施設はNEDOから京丹後市に譲渡されたが、同社が継続して管理運営業務を受託している。</p>	
取組の特徴や強調したい点			

取組の概要	バイオガス発電と農畜産業の連携、民間企業が発電施設を管理運営	課題グループ 農林業 仕組 手法
事例の特性	新技術の導入による循環型資源利用(耕作地・山林)	
取組の中で他の地域の参考となる点	民間企業が中心になり、バイオガス発電などの新たな技術を活用して、社会経済情勢の変化等によって分断されていた複合的な土地利用や自然資源の新たな「つながり」を創出している。	

資料:「平成21年度里地里山自然資源管理モデル検討調査委託業務報告書」
 写真:アマタホールディング(株)HPより <http://www.amita-net.co.jp/business/recycle/kyotango/>